

表紙のことは

松本光治「大海原を航く日本丸」

日本丸は、大型航海練習帆船。帆を張り、荒天の中でさえも敢えてエンジンを使わず、風と太陽と星の天則だけを頼りに航海実習する。出航時には、周囲の船舶が国際信号旗の「UW」（御安航を祈る）をマストに掲げ見送る。

一方、日本丸は「UW1」（見送りに感謝）の旗で答え、帆船の最高位の儀式「登檣礼」に実習生揃って高いヤードに立ち、「ごきげんよう」と声高々勇ましく挨拶して遠洋航海へと出航する。

日本丸、36枚の帆が大海原の貿易風を受けて波しぶきあげ、揚々と航海する優美な姿から「太平洋の白鳥」とも呼ばれる。

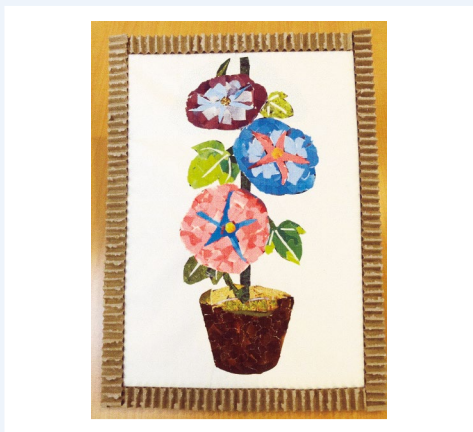
脊髄損傷による肢体障害で不自由ながら、日本丸の勢いよく帆走する情景に活力を得、五感で描いた、夢描く楽しみも、リハビリ努力の甲斐あり。日頃、御世話になる先生方へ感謝の日々です。

元航海実習生、日本丸ボランティア会員



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



河野敏子「秋のおとずれ」

私は介護施設で暮らしており、ちぎり絵を始めて2年が経とうとしています。

朝起きたら新聞を開き、ちぎり絵の質感を出すための材料として、新聞の広告や写真等を探ることが日課になっています。

幼少のころに家に咲いていた朝顔を思い出し、試行錯誤しながら立体的に仕上げました。いつも面会に来てくれる曾孫が、私のちぎり絵をみると、「上手にできているね、おばあちゃんのようにつくってみたい」と言ってくれます。その言葉がとても嬉しく、また励まされ、今では食事の時間を忘れるほど、ちぎり絵制作に夢中になっています。